京都大学教育研究振興財団助成事業
成　果　報　告　書

平成24年10月23日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長　辻　井　昭　雄　様

所属部局・研究科　医学研究科

職 名・学 年　博士後期課程2年

氏　　名　前 迫 真 人

助成の種類	**平成24年度・国際研究集会発表助成**	
研究集会名	第42回北米神経科学会学術集会	
発表題目	Exercise is more effective than diet control in preventing high fat diet-induced Aβ deposition and memory deficit in APP transgenic mice	
開催場所	アメリカ合衆国、ニューオーリンズ	
渡航期間	平成24年10月13日　～　平成 24年10月17日	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料　■ 無　□ 有(　　)	
会計報告	交付を受けた助成金額	200,000円
	使用した助成金額	200,000円
	返納すべき助成金額	0円
	助成金の使途内訳	渡航費　133,710円
		学術集会参加関連費　20,990円
		滞在費、交通費一部　45,300円
当財団の助成について	（今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。）	

成　果　の　概　要

京都大学医学研究科　博士後期課程２年　前迫真人

学術集会名：第 42 回北米神経科学会　学術集会
開催場所：アメリカ合衆国、ニューオリンズ

平成 24 年度京都大学教育研究振興財団国際研究集会発表助成（第Ⅰ期）を交付いただき、ここに成果の報告をさせていただきます。

【学術集会の概要】
平成 24 年 10 月 13 日～17 日に、第 42 回北米神経科学学会学術集会（Neuroscience 2012）がアメリカ合衆国ルイジアナ州ニューオリンズにて開催された。北米神経科学学会は 4 万人を超える会員を有する神経科学分野では世界最大の学会であり、本学術集会にも 3 万人近くの会員が参加した。幅広く細胞から個体までを研究対象とし、脳や神経系の理解を目的に、生理学、生化学、形態学、病理学と多岐にわたる手法を駆使した発表がなされていた。特に目についたのが、脳・神経病の治療を発展させるための基礎的、臨床的研究の多さである。ただ単なる神経科学という学問の発展にとどまらず、研究成果を社会に還元しようと精力的に取り組まれている事を数多くの発表が物語っていた。
【発表内容】
超高齢社会を迎えた本邦において、アルツハイマー病の解明は急務である。近年、西洋化した食事の影響による生活習慣病が脳血管性認知症だけではなくアルツハイマー病のリスク因子として注目を集めている。そのような背景のもと、私は生活習慣病を併発するアルツハイマー病モデルマウスを作製し、生活習慣病がアルツハイマー病の症状を増悪させる事を明らかにしてきた。食事の改善や運動は生活習慣病に対する最も基本的な介入であるため、アルツハイマー病の進行の抑制には食事改善や運動のどちらが重要であるかを検討した。結果、運動がアルツハイマー病の進行の抑制には効果的である事を明らかにし、加えてその詳細な機序を学術集会で報告してきた。これまで、末梢でのイベントが中枢神経系に及ぼす影響は不明瞭な点が多かったが、近年それが明らかになりつつある。学術集会でも、生活習慣病とくに糖尿病とアルツハイマー病に関するシンポジウムセッションが開催され、ポスター発表ではあったが聴衆の興味を強く引きつける事が出来た。
【謝辞】
最後になりますが、本助成につきまして京都大学教育研究振興財団に心より厚く御礼申し上げます。今後とも御財団の益々のご発展を心より御祈り申し上げます。